

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道506号 <small>おろく</small> 小禄道路		事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自： <small>おきなわけん な は し が み ず</small> 沖縄県那覇市鏡水 至： <small>おきなわけん と み ぐ す く し な か ち</small> 沖縄県豊見城市名嘉地			延長	5.7km	
事業概要	<p>「小禄道路」は那覇市鏡水から豊見城市名嘉地に至る延長約5.7kmの高規格幹線道路である。</p> <p>那覇空港自動車道の一部を構成し、沖縄本島のハシゴ道路計画（ネットワーク）において、沖縄自動車道、国道58号、329号とともに南北を走る『3本の柱』として位置付けられており、沖縄本島北部及び中南部と那覇空港間の定時性・速達性を確保するとともに物流・観光の効率化を支援する道路である。</p> <p>また、那覇都市圏の2環状7放射道路の一部を形成し、交通経路の分散化による慢性的な混雑緩和を図る道路である。</p>					
H23年度事業化	H21年度都市計画決定	H25年度用地着手	H26年度工事着手			
全体事業費	約1,240億円	事業進捗率 (令和4年3月末時点)	約77%	供用済延長	0.0km	
計画交通量	39,300台/日					
費用対効果 分析結果	B / C (事業全体) 1.1 (残事業) 3.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 352/1,248億円 事業費：324/1,220億円 維持管理費：28/28億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,350/1,350億円 走行時間短縮便益：1,067/1,067億円 走行経費減少便益：210/210億円 交通事故減少便益：73/73億円	基準年 令和4年		
感度分析の結果	<p>(事業全体) 交通量変動 B/C = 1.0~1.2 (交通量±10%) (残事業) B/C = 3.4~4.3 (交通量±10%)</p> <p>事業費変動 B/C = 1.1~1.1 (事業費±10%) B/C = 3.4~4.1 (事業費±10%)</p> <p>事業期間変動 B/C = 1.0~1.1 (事業期間±20%) B/C = 3.7~4.0 (事業期間±20%)</p>					
事業の効果等	<p>① 円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那覇空港から北部地域までの所要時間が短縮し、速達性・定時性が向上する。 ・並行する国道331号の渋滞損失時間の削減による混雑緩和が見込まれる。 <p>② 観光産業の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那覇空港・那覇港から沖縄自動車道へのアクセスが向上し、北部・中部方面や沖縄県全体の観光周遊活性化が期待される。 ・那覇空港から沖縄本島北部や中部の観光地へのアクセス性が向上され、さらなる観光産業への支援が期される。 <p>③ 物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北部地域から那覇空港までのアクセス性が向上し、空港貨物の運搬を効率化できることで県内の物流産業の活性化が期待される。 <p>④ 地域環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる。 <p>⑤ 生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。 					
関係する地方公共団体等の意見	<p>【沖縄県知事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般国道506号小禄道路は、ハシゴ道路ネットワークにおいて南北を走る強固な「3本の柱」として位置付けられているとともに、2環状7放射道路において那覇都市圏の環状道路を形成することから、極めて重要な道路と認識している。 ・本道路は、沖縄自動車道と一体となって、沖縄本島全域と那覇空港間の定時性、高速性を確保し、観光産業や物流の効率化を支援するとともに、那覇都市圏の交通渋滞の緩和を図ることを目的とする道路であることから、その整備は急務となっている。 					

・以上より、対応方針(原案)のとおり事業継続に同意する。

事業評価監視委員会の意見

・対応方針(原案)に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・小禄道路に接続する那覇西道路が平成23年8月に全線4車線、豊見城東道路が平成27年3月に全線4車線、豊見城・糸満道路が平成29年3月に全線4車線で開通。
- ・周辺地域において、人口や観光客の増加等により、交通量の増加が見込まれる。

事業の進捗状況、残事業の内容等

・平成23年度に事業化、用地進捗率99%、事業進捗率77% (令和4年3月末時点)。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・早期供用に向け事業を推進中。

施設の構造や工法の変更等

- ・今後、技術の進展に伴う新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めながら事業を推進する。
- ・トンネル坑口位置の見直しによるコスト縮減

対応方針(原案)

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

位置図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。